

フレーベル 著

『リナに如何にして読み書きを學ぶか』 (完)

—— 樂しく忙しく働く子供達のための美しい物語 ——

莊 司 雅 子 譯

「それは知つてますわ、CとH」(彼女はそれを石盤の上に描いた)

「そしてリナはこの二つの符號を一つの音のように言い或いは發音することが出来ませんか」

「ああ、わかりましたわ。HはCHの音を示してるんですね」リナはすぐにやすやすと石盤の上に符號を示した。

「それごらん、注意と比較的な考えさへ有つてれば、人は誰でも自分でやすやす見附けることが出来るでしょう。さあ今度は三つの文字から出来る一つの符號を見て見ましょう。(Hを示して) さあ、リナはこれも叔父さんに説明し、そしてその音を出して見ることが出来ませんか」

「一寸試させて下さいね。叔父さん。ここには、i、c、r、の三つの文字が一つの符號に組み合わされてるのではないか

しら」

「そうですとも！ 併し思い出しませんか、リナちゃん、もうお母さんに書き方を教えて貰つた時、これを一緒にして一つの音に發音することを」

「え、え、今でも知つてますわ。叔父さんがこんなに優しく助けて下さるんですもの。それはこんな音……(彼女はHの音を聽えるように響かせた) CHの符號でしょ」

「さあまだ解からない符號はもうたつた一つしか残つてませんね。iの文字ですね。併しこれとよく似た一つの文字をリナはもう學んで知つてるのではありませんか。思い出してごらん」

「確かにあつたわ、iでしょう。(本の中を探しながらこれを示した)」

「そうです。それはどの大文字と同じですか」

「Iとゞと（手紙と本の二つの示して）」

「ではこんなことを知つてなければなりませんね。Iとゞとの符號または大文字は各々二つの音を有つてるといふことを或る時はiの音、例へば *iga* の名前のように、併じまた他の時にはやさしいなめらかな音、例へば *jeit*とか *jozumi* とかの名のような音です。ただ此等のやさしい滑らかな音を一つの小文字で表わす時には、どうしてもリナがちやんと氣が附いたように、iに似たiの符號つまり文字に依らなければなりません。ただそれは恰も流れを表わすやうに、下の方が長く延びてるだけです。ですから小文字iの符號をごらん（本にあるこの符號を示して）とよく似た音を示してゐる。ただ若しもお前が例へば *Genas, Shio, gefuku mit, jeme, Sepphe, misste ich haben* 私はあの繪が好きです。私はあの人形が欲しい。と言つた時は大へん柔らかに響くのです」

「何と嬉しいこと！ 私は今もう此等の全部の小文字を覚えましたし、それを大文字の中にも見附けることが出来、またお母さんに示すことも出来るのです。ほんとに叔父さん有難うね。（飛び上りつつ）ほんとに叔父さんはこんなに優しくしてあなたの描き方と描いた符號とに依つてこんなに上手に私を助けて下さつたんですもの。さうでなかつたら、私はとても容易に見附けることは出来ませんでしたわ」

「リナの言つたことは全く正しいよ。リナちゃん、描くということは實際考へることや試すことを容易にしてくれますよ

ですからお母さんが描き方を教えて下さる時にはよく注意しなければなりませんよ。たとえリナが全く考へてなくても、後になれば丁度一つの輝いた光のようにリナにとつて色々の道しるべになりますから」

「さて叔父さんはまた行かなければならない。が併しお母さんが行きがけにおつしやつたことを覚えてませんか」

「おお、はい！ 後で私達二人が私達のことをよくやつたかどうか、試してみたいつておつしやいましたわ」

「ほんとによく覚えてましたね。ですから私達二人が試験に通るやうに今全部をリナ一人でもう一度正確に念入りに、そして上手に十分に調べてごらん。そしてこれで今日はさよならにしようね。お母さんに私から御機嫌ようと言つて傳えて頂戴」

「御機嫌よう！」

そこでリナの第一の仕事は、叔父の忠告と要求とに依つて本を開き、彼女の好きなやうに符號や文字を發音することだつた。これを幾回も繰返し、而も立派に成功したので、彼女は母のところへ走つて行き、そして叔父の別れの言葉を傳へ更に自分のなした新しい進歩や優しい叔父が彼女に教えてくれた一切のことを話した。「すぐいらして、そしたら私はあなたにそれを示してあげますわ」

「それはほんとに嬉しいことね。描くことの上手な叔父さんはきつと私よりもつとやすやすとまたもつと上手に教えて下さるでしょう、と思つてましたよ。ではリナよ、いつもの

リナのお仕事をなさいね。お母さんはもうごきに済みますから。そしたらリナのところに行きましよう。若し私が行くより前にリナがお仕事が上手に済みましたら、自分で好きなようにしてお遊びなさい」

「ではお隣のミンナちゃんをお誘いして一緒にもう一度何か並べたり組合せたり組立てたりしてもいいでしょう」

「私が言つたことを言つた通りにやつたらね」

「ああ、嬉しいー！」

少女は非常に幸福そうで上機嫌だつた。叔父の指導に依る仕事、それに依つて得た進歩や新しい知識などで彼女はこんなに嬉しいのである。而も嬉しい希望、即ち仕事を立派に果した後、彼女の愛する隣人を楽しいお友達に迎えることを許されてるといふ嬉しい希望が、彼女の魂に次のような上機嫌を呼び起した。即ち彼女は言いつけられた仕事を普通よりも早く済ましただけではなくて、疑いもなくそれをやつた後に彼女が母にそれを説明した時、きつと母が満足するであろうほどに非常に立派になしたのである。そこで嬉しそうにリナは隣の年下のミンナのところに行つて頼むように言つた「ミンナちゃんおいで、一緒に遊びましよう、お母さんがいいつておつしやつたから。あなたもお母さんに頼んでごらん。私と一緒に家で遊んでもいいですかどうですかつて」そして、言葉が殆んどリナの唇を通るや否なや、ミンナはもう母のところへ急ぎ希望の許しを求め、そしてそれが許されて間もなく歸つて来た。

「あなたの大きなお人形も一緒に持つてらつしやいね。そしてあなたの組立て箱や並べたり組合せたりする棒片も貸して頂戴ね。私達は『幼稚園』ごつこをして遊びましよう。私達のお人形に組立て方や並べ方や組合せ方や教え方や書き方や読み方等を教へてあげましようね」

こうして間もなくリナに依つて一つの楽しい遊戯が始められた。併し考え深く忙しく活動する幸福さうな子供達にとつては、時間は餘りにも早く流れて行つた。

「ミンナ」とリナは遊戯が始まつてから間もなくひどく眞剣な聲で言つた。「私達は併し私達のお人形が組立てたり組合せたりしたものを、そのままにして置かなくてはいけないわね。そうすればお母さんがいらした時、私達のお人形がもう數えることや、書くことや、讀むことが出来るということがお解かりになるでしょうから」

そこへ母が来た。

「おやこれはこれは、一體何事ですか。百貨店ですか」

「そうです。私達は幼稚園ごつこをしています。まあ見て下さい。私達のお人形がやつた色々の美しいものを、その上數えることも書くことも讀むことも出来ましてよ。これをあなたのお人形のお名前 ANNA が書かれていますから。そして彼女等は讀むことも出来まして。まるで聽えるように。アンナはフアンニーの名を、そしてフアンニーはアンナの名を讀むことが出来ます」

リナの想像的な創造の働きは母の心にも響いたに違ひないと思つた。

母はたとひ異なつた方法で乃至は他の原因からであるとはいえ實際子供達と同じように喜んだ。母はこんなことを喜んだのだつた。生活が子供達に教育的に與えたものは、更に生活のうちに移り行き、そして再び完全な新鮮な健康な生活のうちに、またそういう生活のために花咲き實を結ぶものだといふことを。

「ほんとにどれもとても美しいわね」と子供達と同じように喜んでた母が言つた。「それにお人形達はほんとに働きものでしたね。さあお人形達をも休ませなければなりませんよ。併し、その前に全部のものをお行儀よく一緒に片づけ、そして各々その位置に置くよう、お人形達に言はなくてはいけませんね。それから一緒に遊んでくれたお友達にはお禮を言ひそしてミンナちゃんをお家までお送りしなさい、またミンナちゃんのお母さんにも快く遊びに来ることをお許し下さつたことに對してお禮をおつしやいね。すぐお歸りよ。そしたら私はリナの望んだように叔父さんが教えて下さつたものを見上げて下さるから」母は、リナがお友達を送り、そして部屋にはいれば直ちに懇願するように母に向つて次のことを尋ねて来ることを前以て知つていた。即ち、

「お母さんはここにいらつしやりながら、叔父さんが教えて下さつたものをお見せしたいと思つてたものを見て下さらなかつたのね」

もう答えを待たずに彼女は母の手を握み、そして頼むように机の方へ引張つてつた。そして、

「こゝにお掛けなさい。私は叔父さんがどんなにして私に教えて下さつたか全部上手に見せてあげましょうね。でもごらんなさい、それは全部まだ石盤に残つてますわ」

そしてリナは先づ第一に A B C, D E F, G H I, J K L, M N O, P Q R, S T U, V W X, Y Z 等の文字の變化と形の發展とを示し、同時に彼女が如何にしてそれを理解したかも示し、その上更に石盤の上に證明することも出来た。このことに依つて多くのものが更に彼女に明瞭になつた。といふのは母は、更にこれやあれやと彼女が忘れたのか、それとも叔父の説明に漏れたかしたものを注意したから。i や j の符號及び最後に複合文字の k, l, m, n, o, p と二重になつた鋭い音の q 等を母に發音して聞かせた。

「これから時々叔父さんにお願ひしてリナの先生になつて貰うようにしましょう。だつてリナは此等をこんなによすくと理解出来るぐらゐに叔父さんの教えをよく覚えてますから」

「ほんとに全部見てごらんなさい。叔父さんはこんなにもお上手に教えて下さいましたわ。それはほんとに丁度一つのものか他のものから生まれ来るようです。また丁度蕾から花が咲きその花が再び果實や種子になるようなものです。お母さんはまだ覚えていらつしやるでせう。あなたが私達の花の咲いてる林檎の樹とあなたがお摘みになつた聖靈降臨祭の林

橋とに就いて私にこのことを教えて下さいましたことを」

「そうです、だからね、私達が言葉で示すことは非常に困難だつたり、或は全く出来なかつたりするような多くのものが符號で示されることが出来るのです。更に自然はその生命と働きとにおいて、言葉や圖形の中に恰もまだまどろんでるいいえまるで死んでるかと思われる眞理を證明してくれませぬ。ですからリナちゃんよ、丁度三人の親しい姉妹のように心から結び合つてる教師を十分尊敬しましょう。——即ち、生き生きとしている自然、物を表わす符號——そして説明的な言葉。（この最後のものは聴くことも出来れば読むことも出来る）——が他を説明し——が言うことを他がもつと理解しやすくするのです」

「ですから、お母さん、私ほんとにお父さんが私にこの美しい御本を送つて下さつたことをとても喜んでますの。何故つて私はもうその中にある非常に澤山の言葉を讀むことが出来ますから。そして私が小文字を覚えさえすれば、すぐ讀むことが出来るでしよう。それを示しましょうか」

「さあ——生懸命聴きましょう」

「おおよさしいこと、次のものは全く同じ文字と同じ言葉でそれはもうお母さんが書き方も教えて下さつたのですし、私はそれをお父さんのお手紙の中に讀むことも出来るものです。では私がお手紙の出来る言葉を全部示しましょうか。それは in—im—an—am—um—ein—mein—meine—meiner—meines—dein—deine—deiner—deinem—denen—

—nein—kein—sein—hin—nimm—kann—man—da—das—dach などです。そして「らんなき」。私はこの一行を全部讀むことが出来ますわ。「子供が泣き出した時、そこへ一人の人が来てそして尋ねた。「お前はどうしたいと言うのですか」——「私は愛するお母さんのところに行きたいのです」と子供は言つた」

「ほんとに上手によく讀めましたね」母はリナに言つた。「きつと今に間もなく御本全部を讀むことが出来るようになるでしよう。少なくとも明日は最初の物語りを試して「らん」はいお母さまが助けて下さつたら、きつと早く出来るようになるでしよう」

「若しリナが一つの言葉を直接讀むことが出来ない時は、その言葉の全部の字が解かり次第、リナが今まで知つてる文字で表わせばすぐその讀み方が容易になるでしよう」

「ほんとに若し御本の全部を讀むことが出来るようになったらどんなに嬉しいでしようね」

「では明日見ることにいたしましょう。今日はこれ位にしましょう。今私達は外の仕事をしなくてはなりませんから」

その晩、食事が済んで床に就く前にも、また翌日は朝の用事を早く済ましてからも、リナは彼女の愛する本を手にしてその第一の物語りを初めから終りまで讀み方をやつて見た。全く聲高々に、上手によく讀めた。母や叔父の前でその本の第一の物語りを聲を立てて、讀み上げることが出来るという喜びで、リナの胸はどきどきした。そして母が一寸した用事

をリナにさせるためにはいつて来た時、彼女はその喜びを隠すことが出来なかつた。

「リナは大へん嬉しそうに見えるわね。きつとお晝のための何かよいことがあると見えますね」

嬉しそくに靜かに微笑みながら、今やリナは彼女に命ぜられた用事に取りかかつた。何故ならそれは事實をうだつたから。自分が喜んだと同じように、母や叔父を喜ばせるためにリナは謂わば三人のためのデザートのもりで、非常に上品に正確にその本の最初の短かい物語りを讀んだ。母はただ初めに句讀點の意義とそれに従うことに就いて注意しただけだつた。

このささやかな集いにおいてリナの進歩をひとしきり喜んだ後、リナは歎くように母に身をすりよせた。そして、

「でも私はお父さんにもこの物語りを讀んでお聽かせ出来ればいいのに、そうすればお父さんも私がかもう大事な愛する御本を讀むことが出来るつてことをこうしてお聴きになれますもの」

「そうよ」と母は答えた。「若し私達が今日のお晝リナが私達に最初の物語りを讀んでくれたことをお父さんに書いて上げたなら屹度お父さんはそのように信じて下さるでせうよ。

私はリナが讀むことが出来るというところをお父さんに證明出来るも一つの他の方法を知つてますけどね。それはお父さんに物語りの一部分をリナの文字で書き、リナの筆蹟で送ることです。何故つて、若しリナが讀むことが出来なければ、本

から寫すことも出来ないということは解かつてることだし、お父さんもすぐお解かりになるでしょうから」

「それはとても素晴らしい考えだ。お母さんはほんとにすべたの人によき助言を知つてらつしやるのね！」と叔父が言つた。

「お素敵ね！素敵よ！」とリナは有頂天になつて叫んだ。「お願ひ、お母さん紙を下さい。そしてそれに線を引いて下さい。私は今直ぐにも書きたいの」

「後から必要なものは何でもあげますよ。ただ誓くことはそう急がなくてもいいでしょう。私はもう二三日してからお手紙を出しますからそれまでリナは一生懸命練習出来ますよ」

「ああ叔父さんもその方が嬉しいね」と叔父が口を入れた。「そればかりでなく私はリナの仕事を全く見ないという一つの危険を逃れたわけなんです。何故なら私は仕事の關係で次の二日間は來られないことになつてから。けれど私は却つてその方が一層嬉しい。その時には何か新しいものが見られるだろうからね。ちや御機嫌よう！」

次の數日間リナは自分で決めた課題で特別忙しく活動した母の時々の輕い優しい助けで、間もなくそれも實際すつかり成功した。而も自分のことのように幼いリナの發展に心から與かる叔父の喜び、その叔父が二三日後丁度約束した通り再び晝食に現われた。

食事が済むや否なや彼女は母の許しを得て叔父に彼女の仕事を示した。

「併し何と澤山の（多くの頁）紙になつたことでせう」と叔父が言つた。「これはどうにか手紙になるね」と彼は冗談を付け加えた。

「ああそうです」とリナは懇願するように母の方に向いた。

「若し私が——お母さん、あなたやお父さんのようにこんなに小さくそしてこんな文字で書くことが出来さえすればどんなにかいいでしょう。あなたの書いてらつしやる時はたいへん早くそして私のようにこんな澤山の紙を使わなくても済むんですもの。お願い、お母さんそれを屹度教えて頂戴——お願いです！」

「はいはい、リナ、出来ませうよ。ただそのためには、私達はお父さんの留守中の今の暇の時間よりも、もつと多くの時間を用いなければならぬのよ。リナはそれを小學校でもつとよく學ぶでしょう。私達が待ち望んでるお父さんが間もなく歸つてらつしやるでしょうから、その時リナはその學校にはいれるでしよう。それまでリナはこのようにしてただ安心して待つてなければなりません。それまでは愛するご本の讀み方で、時間を面白く過ごすことが出来るでしよう」

「ああそうです。そしてそれからお母さんのように書きましようね」

（七頁より）

形だけの整備をはかり、教育内容という言葉ばかりキキウラムと呼びかえることによつて、改造が出来上つたと考へるならば、大きな誤謬の原因となるであらう。教育上のどんな進歩

でも、それが可能になるためには、多くの努力を必要とすとす、教育の改造に關して、手軽に他の形を模倣することは嚴につしまなければならぬ。

（三四頁より）

（5） 五歳兒の發達的特質

五歳兒は幼兒期の終りに近い所にいる。たのもし、たよりになる、獨立的な能力と性格とが幼兒の心のうちに育つてゐる。この成長を順調につづけさせて行くように考へることが、わたくし遠大人のつとめである。

新刊紹介

厚生省兒童局保育課 副島ハマ 氏著

（幼兒の集團遊び歌曲集）

こどもの楽しい歌遊び

「地方の講習會で、若い熱心な保母さん方に「……ぜひ集團遊びの樂譜を……」と云われ、自分が保育に踏み出した頃の苦勞を想ひ合せて、すすめられるままに、古くから幼稚園、保育所で用いられているものを二十曲だけまとめて見ました。保育界の捨石になりたい私の若い保母さん方へ贈る小さな贈物の一つです」

これは同著のはしがきの一節であるが、保育きちがいと仇名される副島氏の、保母を愛する真心は、この書出でて、増々多くの保母を喜ばせることだらう。 定價一〇〇圓

（目黒區下目黒二ノ四六八・白眉社發行）